

町田フィルハーモニー合唱団
第13回演奏会

メンデルスゾーン
オラトリオ

聖パウロ

作品36

Paululus

Felix Mendelssohn op.36

指揮 荒谷 俊治

ソプラノ 松原 有奈

アルト 宮澤 彩子

テノール 望月 哲也

バス 末吉 利行

バス 浦野 智行

バス 藤井 大輔

管弦楽 町田フィルハーモニー交響楽団
合唱 町田フィルハーモニー合唱団

日本語字幕付

ミケランジェロ作「聖パウロの回心」バオリーナ礼拝堂

2013年 **7月14日** (日)

13:00開場 / 13:30開演 / 16:30終演予定

東京芸術劇場コンサートホール(池袋)

入場料：S席 3000円 A席 2500円 B席 1500円 (全席指定)

チケット取り扱い：東京芸術劇場ボックスオフィス 03-5391-3010

チケットぴあ 0570-02-9999 (2月14日発売予定)

問い合わせ：望月 042-732-7217 三浦 042-736-4515

主催：町田フィルハーモニー合唱団 http://music.geocities.jp/chorus_mpc/



メンデルスゾーンのオラトリオ「聖パウロ」は1836年5月22日、デュッセルドルフのニーダーライン音楽祭で初演され大変な好評を博しました。「聖パウロ」は聖書の「使徒言行録」に基づいて使徒パウロの行跡を物語るオラトリオですが、すでに1829年にバッハの「マタイ受難曲」の復活上演を行っていたメンデルスゾーンが、受難曲に続くオラトリオとして「聖パウロ」の構想を抱いていたものと推察されます。いわば、オラトリオ「聖パウロ」は受難曲の続編であると言えます。

メンデルスゾーンはバッハの「マタイ受難曲」、ヘンデルのオラトリオ「メサイア」を踏まえ、「聖パウロ」においてイエスの十字架の死と復活の後のキリスト教の展開を描き、一転して、もう一つの著名なオラトリオ「エリア」によって旧約の世界にいたり、キリストの預言を示し、そして未完に終わりましたが、オラトリオ「キリスト」を構想し、壮大な聖書の世界をオラトリオとして描こうとしたものと

思われます。こうした預言者エリアからメシアとしてのイエスの受難、使徒パウロの回心と伝道、そしてキリストの再臨というキリスト教の壮大な歴史的流れの中でのオラトリオ「聖パウロ」の位置付けと意味を理解しなければならないでしょう。

オラトリオ「聖パウロ」の主題は、新約聖書の「使徒言行録」に述べられているパウロ(=パウロ)の回心と伝道の行跡です。パウロは、当初はイエスの教えに反対し、イエスの死後もなおイエスを信じる者たちを迫害していたのです。そのパウロが、ダマスコへの途上で、復活したイエスの顕現に遭い啓示を受け、一転してキリスト教の熱心な伝道者となり、初期キリスト教の神学的基盤を確立した中心的人物となりました。いわゆるパウロの回心です。オラトリオ「聖パウロ」の第I部は、このパウロの回心の物語が主題であり、第14曲でその情景が美しく描かれています。第II部はパウロと名を改めたパウロの伝道の行跡を描き、その証を示しています。

荒谷 俊治 (音楽監督・指揮)

1930年生まれ。1953年九州大学法学部卒業、1955年同文学部卒業。指揮を石丸寛、作曲を高田三郎の各氏に師事。1959年東京放送合唱団を指揮してデビュー。以来、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団をはじめとする各オーケストラ、合唱団を指揮して活躍。NHKほかの多数の番組にレギュラー出演。1968～1974年東京フィルハーモニー交響楽団指揮者。1969年文化庁派遣在外芸術研修員としてアメリカに留学、ジョージ・セルのもとで研究。1970年春クレーヴランド管弦楽団を指揮、秋からは東京バレエ団ヨーロッパ公演に招かれて、ヨーロッパ各地のオーケストラを指揮して帰国。1974～1980年名古屋フィルハーモニー交響楽団常任指揮者として活躍。殊に「名フィルと邦楽器の名手たち」シリーズでは、名フィルの新しい個性として称賛を得た。これと並行して、1966年頃から日本オペラ協会と協力して創作オペラを、また日本音楽集団と協力して伝統に根ざした日本の新しい音楽を育てることに情熱を注いできた。

数々のアマチュア団体の育成にも尽力している。町田フィルハーモニー交響楽団では、1975年～2011年音楽監督・常任指揮者、現在は桂冠指揮者。町田フィルハーモニー合唱団では1995年の創立以来音楽監督である。30年以上にわたる音楽文化の発展に寄与した功績で、2002年度東京都文化功労者表彰を受ける。2003年2月～2012年3月、日本指揮者協会会長を務め、現在は特別顧問。2004年11月、地域文化功労者文部科学大臣表彰を受ける。NPO法人町田市芸術協会理事長。



町田フィルハーモニー合唱団 (MPC)

1995年5月、町田フィルハーモニー交響楽団創立20周年記念演奏会で、マーラーの交響曲第2番「復活」が演奏された。その際、公募に応じて集まった人々により結成された合唱団が当団の母体である。この演奏会の指揮者であった荒谷俊治氏を音楽監督に迎え、同年6月にオーケストラとの共演を目指す合唱団として新たなスタートを切った。1996年9月、旗揚げ公演としてフォーレの「レクイエム」の演奏を行ったのを皮切りに、意欲的に大曲を取り上げてきた。荒谷音楽監督に加えて松井眞之氏に合唱指導を仰ぎ、2004年8月には常任指揮者として就任いただいて今日に至っている。また、ボイストレーナーとして西けい子氏を始めとする経験豊かな声楽家にご指導いただいている。この恵まれた環境の中、町田市および周辺の地域から集まった常時100人を超す団員は、毎週土曜日または日曜日の練習に情熱を燃やして取り組んでいる。



東京芸術劇場へのアクセス: JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分。駅地下通路2b出口と直結しています。

東京芸術劇場に「託児サービスあります。」芸術キッズルームミュージアムにて
 ■お預り対象:生後4ヶ月から小学校入学前のお子さま(定員あり)
 ■お申込み方法:お電話での事前予約(利用日の7日前まで) ■お申込み・お問合せ:03-3981-7003

町田フィルハーモニー交響楽団

1975年1月、町田市民を中心に近在から音楽愛好家が集まり、「町田市民管弦楽団」が発足。同年5月から指揮者:荒谷俊治氏の指導を受け、同年10月に第1回定期演奏会を開催。1977年9月、一層の発展を目指して「町田フィルハーモニー交響楽団」と改称して現在に至る。町田フィルのモットーは「すばらしいアマチュアオーケストラを目指し、音楽を通じて相互の親睦研鑽を深め、あわせて地域音楽文化の発展向上に努めること」である。荒谷俊治氏の薫陶を受けながら、年2回の定期演奏会、1995年まで12年間続いたつくし野駅前での野外オペラコンサート、年末恒例となっていた町田市民ホールでの「第九」<メサイア><<くみ割り人形>公演など、地元根ざしたオーケストラ活動を展開してきた。町田フィルハーモニー合唱団とは2007年7月のハイドン「天地創造」以来、久々の共演となる。

